

UCS Smart Call Home のトラブルシューティング

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[Cisco UCS での Call Home 機能の設定](#)

[トラブルシューティング手法](#)

[一般的な問題](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Smart Call Home(SCH)機能の設定が完了した後で、問題をトラブルシューティングする際に実行する手順について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Smart Call Home

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

Cisco UCS での Call Home 機能の設定

『Cisco UCS Manager GUIコンフィギュレーションガイド、リリース2.0』の「[Call Homeの設定](#)」セクションに移動します。

設定の簡単なビデオを次に示します。 [UCSでのSmart Call Homeの設定](#)

[トラブルシューティング手法](#)

設定がすでに確認されており、SCHサービスに登録されている場合は、次の手順を実行して、UCS BシリーズサーバのSCH問題をトラブルシューティングします。

1. UCSアクティブFIにSSHで接続します。
2. nxosを接続します。
3. debug callhome all
4. WebブラウザでUCSMに接続します。ナビゲーション ペインで [Admin] タブをクリックします。Adminタブで、All > Communication Management > Call Homeの順に展開します。作業ペインで、[System Inventory]タブをクリックします。[Actions]領域で、[Send System Inventory Now]をクリックします。
5. FIのnxosプロンプトで、次の操作を行います。undebg all Check:Call Homeに設定された受信者に電子メールが送信されたかどうかを確認します。デバッグ出力にエラーが表示されていない場合は、UCSのSCH設定を確認します。有効なファイルがあれば、次のステップに進みます。
6. ethanalyzerでSCHメールパケットをキャプチャしてみます。Ethanalyzerは、オペレーティングシステム内のNX-OSにスニフing機能を提供し、サードパーティ製ネットワークプロープの必要性を簡素化します。nxosのnxosプロンプトで、次のコマンドを実行します。
debug callhome allethanalyzer local sniff-interface mgmt capture-filter "port smtp" limit-captured-frames 0デフォルトでは、Ethanalyzerは最大10フレームをキャプチャします。
limit-captured-framesを使用して値を変更するか、別の値に設定するか、値0を使用して制限を削除します。これは、同じイベントのデバッグとパケットキャプチャを収集し、パケットキャプチャをsmtpポートだけに制限する試みです。
7. 手順4を繰り返して、インベントリを再度送信します。ステップ5を実行して、デバッグとethanalyzerをオフにします。注：Ctrl+Cを使用して、ethanalyzerキャプチャを停止できます。
8. 再度、Call Home用に設定された受信者に電子メールが送信されたかどうかを確認します。設定が正しければ、ethanalyzerのキャプチャに電子メールが表示されます。受信者が電子メールを受信しなかった場合は、**Simple Mail Transfer Protocol(SMTP)エラーに関する工チャ** **ンライザの出力を確認**してください。SMTPサーバが正しく設定されていない可能性があります。
9. 電子メールがCall Home用に設定された受信者に送信されたが、SCH **Cisco TAC Service Request(SR)**が開かれていない場合は、次のページに移動します。tools.cisco.com/schこのリンクを使用すると、SCHバックエンドがcall-homeアラートを受信したかどうかを確認できます。シリアル番号/ホスト名のデバイスIDなどに基づいて実行できるさまざまなレポートがあります。インベントリを送信する代わりにCall Homeアラートのテストを実行する場合は、システムインベントリの代わりに次の項目を試すことができます。

このページからの抜粋を次に示します。 [Test Call Homeアラートの送信](#)

```
Step 1UCS-A# scope monitoring
Enters monitoring mode.
```

```
Step 3UCS-A /monitoring/callhome # send-test-alert
Sends a test Call Home alert using one or more of the following alert parameters:
```

Alert description
Alert group
Event severity level
Message type
Message subtype

テストCall Homeアラートが送信されると、Call Homeは他のアラートと同様に応答し、設定された宛先の電子メールアドレスに配信します。

次の例では、テストCall Homeアラートを環境アラートグループの設定された宛先Eメールアドレスに送信しています。

```
UCS-A# scope monitoring
UCS-A /monitoring # scope callhome
UCS-A /monitoring/callhome # send-test-alert alert-description
"This is a test alert" alert-group environmental
```

一般的な問題

設定の単純な問題の他に、ネットワークやメールサーバに関する問題が発生します。また、登録の問題も一般的です。

ファブリックインターコネクトのIPアドレスと仮想IPアドレスは、SMTPサーバ上でリレーとして設定する必要があります。

新しいユーザ登録を作成するには、次のものがが必要です。

- 登録者の有効なCisco.com ID。
- 登録するユーザを管理者として登録する必要がある場合に、Smart Call Homeでサポートされる会社の有効な契約を少なくとも1つ締結します。

デバイスの設定と登録方法についての短いビデオ

SCH登録チームに関する問題を解決するには、登録の問題を次のリンクに移動します。 [Smart Call Home](#)

関連情報

- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)